

すいかの植替栽培に適した品種特性

促成または半促成すいかの収穫前に株間に定植する植替栽培(4月下旬~5月上旬定植)において「縞無双H」、「貴ひかり」、「KW-M10」は糖度が安定し、果肉が硬く、収量性も主体となる品種の「富士ひかりHF」並であり、植替栽培に適する特性を持っている。

農業研究センター農産園芸研究所野菜部(担当者:末永善久)

研究のねらい

現在、熊本県では促成または半促成栽培の植替用品種として、「富士ひかりHF」が約90%栽培されている。当品種は肥大性や収量性は良好であるが、収穫期の幅が狭く、果肉が柔らかく、種子部分の崩れなど高温下で過熟となりやすい欠点が指摘されている。そこで、品種特性を解明し、高温下でも肥大性と糖度が安定し、果肉の硬い系統・品種を検索する。

研究の成果

- 1 草勢は「貴ひかり」が最も強く、次いで「富士光HF」が強い。
- 2 雌花着生は「縞無双H」、「KW-M10」、「TL-20」、「祭ばやし」が安定する。
- 3 定植時に土壌が乾燥状態であるため、初期の草勢が弱く、果実肥大がしにくい条件下で「富士光HF」は最も肥大が優れるが、「貴ひかり」、「縞無双H」、「KW-M10」も「富士光HF」とほぼ同等の肥大性を持っている。
- 4 果肉硬度は、「貴ひかり」、「縞無双H」、「KW-M10」いずれも「富士光HF」より高い。
- 5 糖度は「縞無双H」、「貴ひかり」、「KW-M10」が「富士光HF」より明らかに高いが、果肉の崩れ程度では大きな差はない。果肉のシャリ感も「縞無双H」、「貴ひかり」、「KW-M10」が「富士光HF」より良好である。
- 6 収量は商品果収量で「貴ひかり」、「縞無双H」、「KW-M10」が「富士光HF」並となる。また、この3品種・系統は秀優収量でも「富士光HF」並で良好である。

普及上の留意点

- 1 連棟ハウス内は5月以降、気温が特に高くなりやすいので、換気を図り気温を下げ、肉質の低下を防ぐ必要がある。
- 2 果肉が硬い品種は果皮硬度も硬い傾向にあり、果形は安定するが、やや熟期が遅くなる傾向を示す。
- 3 「貴ひかり」は子づるの摘心はしない。

表1 果実特性

系統 ・ 品種	糖度 (BX)	果a 肉 色	果皮 硬度 (kg/cm ²)	果肉 の崩 れ	ツリ 感	香 り	果皮の 緑色 程度
富士光HF	10.0	2.2	10.6	同等	同等	並	並
貴ひかり	11.0	2.3	11.7	同等	同等	並	並
KW-M10	10.6	1.9	13.1	やや少	良好	並	並
W-TN	10.1	2.7	12.3	やや少	良好	並	並
縞無双H	11.1	2.2	12.5	やや少	やや良	並	並
KW-M5	10.9	2.5	13.1	やや多	やや良	やや多	並
TL-20	10.5	2.5	10.9	やや多	良好	並	淡
夏太鼓	10.4	2.3	10.0	やや少	同等	並	並
祭りばやし	10.3	2.9	-	少	やや良	多	やや濃

注) 5果調査の平均、3カ年平均 a: 淡~濃(0~3)

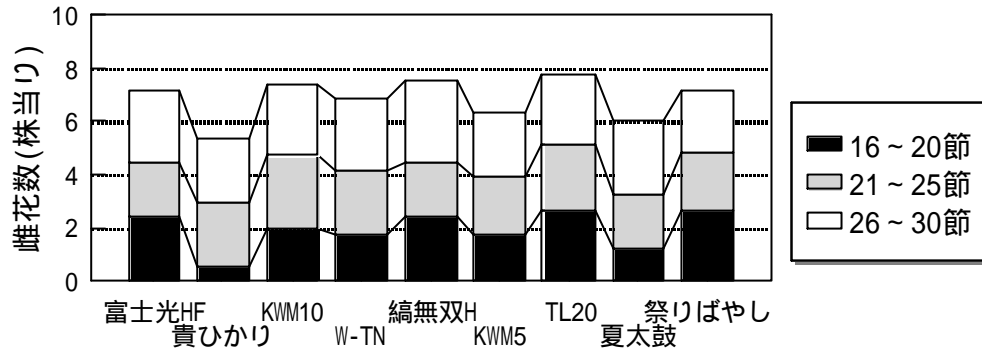
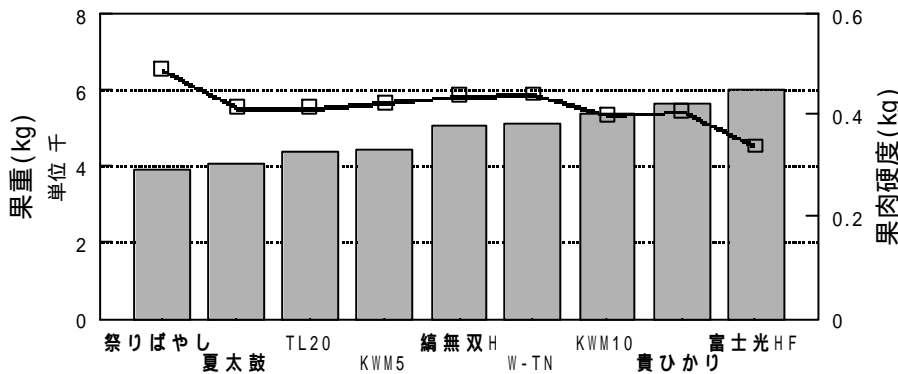
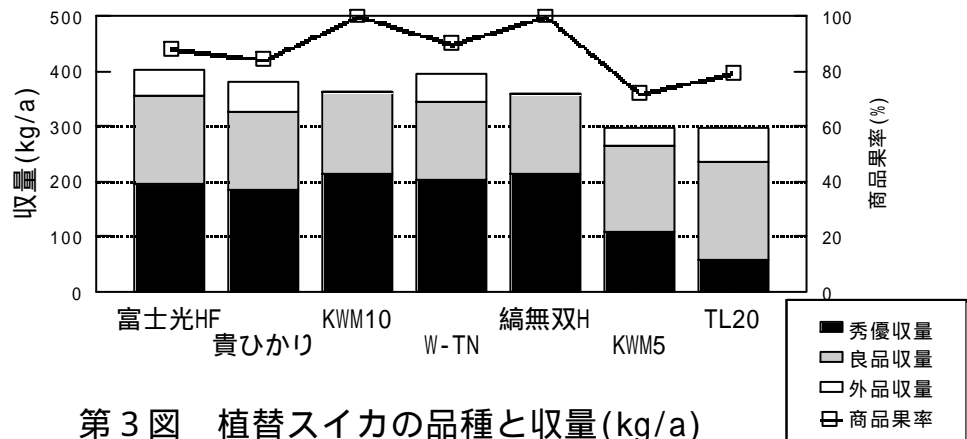


図1 第1図雌花着生数



第2図 果重と果肉硬度



第3図 植替スイカの品種と収量(kg/a)